

大田区自立支援協議会 第11回相談支援部会要旨

文責：野崎委員、事務局一部修正

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第11回相談支援部会				
(2) 開催日時	令和5年2月8日(水) 9:30~12:00				
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター5階 多目的室				
(4) 出席した委員、事務局等	委 員 <敬称略>				
	神作 彩子	古怒田 幸子	山本 利寛	清水 悠子	井岡 幸子
	石川 洋平	井町 恵	大窪 恒	大類 信裕	草野 牧子
	茂野 俊哉	清野 弘子	筒井 寛孝	永井 良宗	野崎 陽一郎
	オブザーバー：渡邊 伸幸、徳留 敦子、後藤 憲治、村田 亮、七尾 尚之、馬場 聡子、渡部 尚、金子 江理子、廣井 千晴				
	事務局：須藤 成政、柳田 実希、酒井 史穂、阿部 朝奈				
欠席者：上原 優希、小嶋 愛斗、小川 幹夫、高柳 茂泰					
(5) 内容・要旨	<p>1 連絡確認事項</p> <p>(1) 司会・書記の確認 司会は神作部会長、須藤係長。書記は野崎委員と確認した。</p> <p>(2) 前回議事録及び意見出しカードの確認 意見出しカードと議事録は、相談支援部会委員のみの閲覧をお願いする。</p> <p>(3) 運営会議の報告 各部会の報告について、地域生活部会では障がい特性の理解に着目し検討した。防災・あんしん部会では差別解消支援地域協議会について障害福祉課長からお話いただき、意見を出し合った。</p> <p>報告書について、今年度は2年任期の後半部分の報告書を作成している。自立支援協議会から参加している会議体について内容も掲載される予定。次年度の本会の内容は、第1回は委嘱中心、第2回は中間報告、第3回はまとめとし全3回行い、その間に企画を行う予定。</p> <p>2 本日の検討課題</p> <p>(1) 今期のまとめ(神作部会長より)</p> <p>本日が、2年任期のまとめとなる。報告書をもって自立支援協議会の活動を発信する。協議会から参加している会議体の紹介もあるので、例年よりページ数は多くなる。2年任期のため1年目に中間報告書を出していた。今回の専門部会では、報告書の作成のため振り返りをしていく。</p> <p>今期の相談支援部会で取り組んだ内容の2本柱「個別支援会議から地域課題を抽出し検討する」「大田区の相談支援体制を検証する」については、今後も検討していければと思う。ただし、検討する地域課題の内容は時代に合わせて変化させていきたい。</p> <p>1年目は、地域課題の中から「医療と福祉の連携の課題」に着目し部会で取り組むこととした。野中式事例検討では山本委員から事例提供いた</p>				

	<p>だきアセスメントを行った。個別のケースから見えてくる課題を地域の課題として捉え直し、さらに派生した課題を取り上げた。</p> <p>2年目は「医療と福祉の連携の間にある課題」に着目をした。相談支援専門員のアンケートを実施し、「医師とのやりとりについて」「医師以外の医療職とのやりとりについて」「計画を医療関係者に渡しているか」等回答を得た。「医師とのやりとり」は1ケースでもあれば「ある」との回答としているため、一人当たり何件あるのかは不明。「計画を渡している相手」は記載されているMSW、看護師以外に、薬剤師へ渡している方もいた。生活状況の共有にあたり、本人に了承を得ながら関係者に計画を渡すことも一つの方法である。課題に感じることや、やりとりをして良かったこともアンケートから読み取れた。</p> <p>大田区在宅医療相談窓口の連携体制について、相談支援の状況はどうなっているのか、介護と医療の連携について何うことで、障がいと医療の連携のヒントになることはないか、また、介護と医療の連携に、障がい分野も入らせていただけないかという話をした。</p> <p>訪問看護について、看護師は、訪問の時間内で本人の状態を見ていることが多いので、計画を共有することで、訪問時間外の本人の状況を知ってただけることが分かった。</p> <p>薬剤師について、以前は主に薬のやり取りが基本だったが、訪問薬剤師やかかりつけ薬剤師として、本人の生活面を見ようとする薬剤師が増えている。最後のページには、今回の専門部会で検討する発信方法について記載していきたいと思う。</p> <p>茂野：要約すれば現状の報告書のような形になるということは分かるが、ストーリーやメッセージがない。ゲストスピーカーを招いた経緯、相談支援専門員へのアンケートについても背景として「このようなことで困っていた」等の表記が無いように感じる。検討がなされたきっかけが見えづらい。</p> <p>神作：現時点の報告書では、なぜその検討をしたのかは見えづらい部分がある。このような言葉が報告書にあればストーリーがみえるのではないかという意見もいただければと思う。</p> <p>(2) ワーキンググループの活動について</p> <p>今期は「重層的支援体制における第2層の充実に関すること」をテーマとした。大田区として、充実を図るにはどうしたらよいか。第2層と位置付けられていないが、活用していきたい資源も含めて整理した。また、行政向けに、徳留係長より第2層についてアンケートを実施いただいた。こども発達センターわかばの家は子どもの相談、地域活動支援センターは高齢者の相談、社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターは対象を限定しない相談として、この3か所は第2層的な相談を受けている。配布資料に</p>
--	---

	<p>は、どこに相談したら良いのか明確であれば、区民の安心した生活に繋がるということをまとめた。</p> <p>山本：第2層について話し合ったきっかけに「障がい者福祉のあらまし」内にある相談支援事業所の数が少ないことがひとつあった。契約外の方からの相談が多く、電話回線がふさがることもあり実務的に足りていないと感じる。事業所から離れた地域からの相談もあり、数的にも位置的にも不足している。既にあるものと繋がりながら拡充したい。今後も検討を続け充実を図りたい。</p> <p>大類：第2層の少なさはあるが、増やせばいいということではない。異なる分野の相談もワンストップで対応していくことでフォローできる。事業所ごとの事情があるかもしれないが、勇気を出して相談に来た人を連携して受け止めることは大事だと思う。</p> <p>草野：重層的な相談支援体制の「第2層はどこなのか」ということからワーキンググループが始まった。一般的な相談を担っているところは、第2層をカバーしていると思っている。第2層を厚くしていく必要があることは感じている。</p> <p>清野：親としての立場で参加した。親の会として担っていることもあると感じた。繋ぐ立場として親の会も参加していければと思う。</p> <p>神作：今回の配布資料の中に名前はないが、様々な立場、機関の方が担っていることがある。</p> <p>茂野：基本相談を受け切れていないと、エビデンスが無いので言い切れない。相談支援を担っている立場の状況として「足りない」という表現であればいいと考えている。今後も検討をしていくという表記があるといい。</p> <p>古怒田：当事者、家族が高齢化しているので家族会に参加できない方もいる。コロナ禍で問題を抱えている家族も増えている。保健師も少なく現状では保健所がパンクしてしまう。親亡き後というが、イギリスでは「親あるうちに」である。広い視野で共生に向けた体制が必要ではないか。</p> <p>3 グループワークでの検討</p> <p>(1) まとめ、報告書に追加した方が良い文言などはあるか</p> <p>(2) 自立支援協議会活動の発信方法</p> <p>4 2年間の活動についての感想またはグループワーク内容の発表</p> <p>D グループ</p> <p>清野：繋がるのが大切だと思う。相談支援部会参加前は、相談窓口などがわからなかった。親がパッと行ける場所があればいいと思う。</p> <p>馬場：毎回得るものがあった。今年度は医療の方のお話も聞いた。今後も関係性が広がっていくといいと思う。勉強になった。</p>
--	---

	<p>山本：報告書に検討内容全てを盛り込めたらいいが、難しい。報告書と補足資料を併せて見ていただくのはどうか。相談先が分かるようになっているといい。報告書へは今回のテーマに決まった経緯を載せてほしい。</p> <p>大田区内の会議体は名称を知らないと存在が分からない。インターネットを活用するのであれば、分かりやすくページを配置する必要がある。</p> <p>徳留：地域資源は様々あり、会議体があることを気づいた。繋がるということが着目されているが、顔の見える関係や継続的な積み重ねが必要。繋がりを大切にし、今後の支援にいかしていきたい。</p> <p>野崎：貴重な時間になった。自立支援協議会を発信するには、自事業所での資料回覧だけでなく、自分から積極的に報告していきたい。</p> <p>永井：対面で会うことが少なかったので、対面で話し合う機会を改めて認識できた。今後も会議を通じて繋がっていきたい。</p> <p>Bグループ</p> <p>渡部：在宅医療相談窓口には早速相談し、個別ケースが使っているサービスについて知ることができた。相談先が増えて気づきも増えた。</p> <p>井岡：医療、福祉、介護の連携について、なんとかしなければという思いで、協議会に継続して関わらせていただいている。一人ひとりが諦めず、途切れさせずに繋がることで関わりが深くなっていくと信じている。今後も連携がとれるといい。</p> <p>石川：報告書については、テーマ設定の背景を一文でも入れてほしい。訪問看護、薬剤師の回で学んだことも報告書でアピールしてほしい。</p> <p>協議会の発信方法については、各事業所で内容発信する。相談員のネットワークで障がい分野だけでなく、ネットワークを作り共有する。ただし、誰がイニシアチブをとるかという課題はある。</p> <p>七尾：医療と福祉の連携は誰が解決できるのかというのは永遠のテーマ。相手の活動や役割を知らないと繋がりにくい。協議会がその場を作ってくれたことに感謝したい。薬剤師さんが薬を訪問で届けてくださるということを知れたのが良かった。</p> <p>村田：医療をどう巻き込むか、その手掛かりと、医療側が求めていることを知ることができた。協議会の周知もしていきたい。</p> <p>Aグループ</p> <p>古怒田：人が心配や不安をかかえているのは当たり前。その時どこに相談すればいいのか、窓口を区民が知っていることが大切だと思う。</p> <p>井町：介護保険と障がい者支援の違いを知ることができ勉強になった。今後の支援にもいかしていきたい。</p> <p>渡邊：貴重な話を聞いて良かった。この会議での知見が継承されていくことが大切だと思う。</p>
--	--

	<p>廣井：協議会の具体的な内容が、参加したことで分かった。相談支援専門員がケアマネと比べて認知度が低いことを初めて知った。実際の現場の方と連携の方法について検討していきたい。対面での会議は連携において良かった。</p> <p>大窪：多様化が求められる時代なので、会議体もコロナ禍でも実施できると良い。協議会の発信について、「誰に向けての発信となるのか」を検討した。</p> <p>大類：協議会の最終的な目的は「当事者、当事者関係者への享受」である。福祉の仕組みは時代で変わっているが、当事者、家族の思いは変わっていない。協議会を通じてより良い仕組み、システムの構築ができればよいと思う。</p> <p>Cグループ</p> <p>草野：この会議で話したことを今後地域の方にどう発信したらよいか模索していきたい。薬剤師を支援チームの一員として考えて良いということが発見だった。現場でいきる情報を支援に繋げていきたい。</p> <p>清水：2年で学んだことを日頃の業務で役立てていきたい。区内全域に広まっていくことも大事だと思う。地域福祉の推進が社会福祉協議会の役割であるので、協議会で話し合われたことは共有したい。</p> <p>筒井：なぜ訪問看護師、薬剤師をお呼びしたか報告書に書いてほしい。各連絡会で、協議会についてさらに周知していきたい。</p> <p>茂野：協議会に参加して10年になる。障がい者をめぐる法制度は大きく変化している。制度にあることが実際にできているか、検証していくことが協議会の役割だと思う。大田区でも行政ができることと委員の思いのすれ違う時期もあったが、きちんと討論しそれを残せる状況になってきた。現在は検討してきたことを、誠実に報告書に残すようになり、良い変化が起きていると思う。</p> <p>金子：参加している委員は各事業所で内容を共有していると思う。ただ、参加できない事業所も協議会の内容を知っていただけるようにすることが大切。それが支援の向上にも繋がる。</p> <p>後藤：相談支援を担う方々が感じる苦勞を知り、勉強になった。報告書を作成するとのことだが、医療、介護との連携に苦勞している方にもダイレクトに伝わるように周知広報すると良いと思う。</p> <p>事務局より</p> <p>酒井：1年間通して勉強になった。ありがとうございました。</p> <p>阿部：相談とは何かというところからの参加で至らない点もあったかと思うが、勉強になった。</p> <p>柳田：相談支援部会へ5年間携わってきた。参加者が議論しやすいよう事務局として動いてきた。協議会での検討が、最終的に本人ないし周りのより良</p>
--	--

	<p>い生活に還元されていくことができるよう、これからも一緒に議論していきたい。</p> <p>須藤：相談支援部会へは、5部会から3部会に編成された時から参加した。今期もありがとうございました。</p> <p>神作：地域課題は取り組まなければならない課題が多くある。部会内で課題を出した中で、医療と福祉の連携をテーマに決めた。皆さんのお力を借りて継続していくことが必要。検討し続け、形にしていく協議会の活動を引き続きやっていきたい。</p> <p>本会ではしっかりと相談支援部会について報告をしていく。</p>
--	---